

エディトリアル

横須賀市立うわまち病院小児医療センター センター長 宮本朋幸

今月は、「総合医のための小児科講座3」をお届けします。2017年から行われる新専門医制度に伴い、総合診療専門医が新設されました。この領域には、小児科の初期対応が必須であることは言うまでもありません。これまで、2回にわたり小児科のさまざまな病態の解説を行ってまいりましたが、この総合診療専門医設立にあたり、日常的な小児の病態の初期評価・初期対応に重点を置いた企画を立てました。「発熱」「咳・呼吸困難」「けいれん・意識障害」「腹痛・嘔吐・下痢」…。これらは日常の診療で高頻度に出会う症状で、概して軽症のことも多い症状です。本企画では、各著者に、これらの日常的な症状の診察のポイントや、これらの症状を訴える患児の一部に潜む重篤な疾患を見逃さないための観察のポイントを解説していただいております。

今回の執筆陣は、地域医療振興協会の小児科医たちにお願いました。地域で小児医療を支えている施設ですので、さまざまな小児の初期症状に出会い、重症化する症例も経験している医師たちです。その経験を生かした解説が行われております。通常の解説書にはない、地域医療に密着した当協会ならではの視点からの原稿がそろっております。きっと、本誌読者の皆さまのお役に立つものと思っております。

小児の評価・管理については、さまざまな研修会がそろっております。地域で活躍する総合診療系の先生方もそのような研修をお受けになったことがおありと思います。本企画での私の原稿の中でも引用いたしましたが、「PEARS (Pediatric Emergency Assessment, Recognition, and Stabilization, 小児救急 評価・認識・病態安定化)」コースも小児のさまざまな症状の初期評価・初期管理を学べるコースであり、総合診療医の方々にもぜひ受けていただきたい研修会です。当協会でも企画しており、本誌の「お知らせ」コーナーなどで皆さまにお伝えいたしますので、ぜひご参加ください。

幸いなことに小児科医数は徐々に増加しておりますが、24時間365日体制で小児の生命を守っていくには小児科医のみではなかなか困難なことだと思われまます。地域医療を守っていらっしゃる総合医系の先生方の助けがあってこそ、小児科医は専門性を発揮できます。これからも、本誌では総合医の先生方に向けた小児医療の情報を発信してまいりますので、ご期待ください。今後、小児医療関係で取り上げてほしい企画のご希望がございましたら、編集部までご連絡いただければ幸いです。